

令和5年度 教育行政執行方針(要旨)



3月2日、川島真澄教育長が令和5年第1回町議会定例会で教育行政執行方針を述べました。

1 はじめに

昨年は、3年越しの新型コロナウイルス感染症対策に取り組みとともに、ウイズコロナにおける新しい時代の学びの実現に向け、これまでの教育活動を見直し、改善を図る一年となりました。世界に目を向けると、多くの国

努めるとともに、本町らしい小中一貫教育の一層の充実に向け、次の①～③の取り組みを推進します。

① 実社会で生きる実践的な力の育成

●基礎学力の定着

小中一貫教育の特性を生かし、子どもを主語にした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図る教育活動の推進および「主体的・対話的で深い学び」の実現を図られた授業改善に努めます。

また、ICTを効果的に活用するとともに、放課後学習サポート事業や長期休業期間中の補充的な学習の充実に努め、学習習慣および基礎学力の定着を図っていきま

す。そのためにも、新たな学びに資する質の高い教師集団の形成に向けた校内研修等を推進します。

●語学力の向上

日常的に使える外国語の習得を図るため、コミュニケーション能力の確実な定着が図られる授業づくりや、ALT(外国語指導助手)の効果的な活用による放課後等の時間を活用したミニ英会話教室(

がアフターコロナ・ポストコロナの時代を踏まえた政策に転換し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進しようとしています。

令和3年1月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育の構築を目指して』では、子どもたちが多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することが求められました。

また、令和4年12月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について』では「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教師集団の形成を図ることの重要性が示されました。

このような中、本町においては、まちを見つめ直すこと、他人のために汗を流すこと、足元の材料を



ICTを使った方がよい授業と、そうではない授業とを見極め、ICTを効果的に活用していくことが重要です。

ECクラブ)の設定などに取り組みとともに、他地域の私立学校との交流や海外研修等により、外国語を用いてコミュニケーションを図る場と機会の拡充に努めます。

●キャリア教育の充実

「子どもたち一人一人が社会的・職業的自立に向けて必要な基礎となる資質・能力を身に付けていくことができるよう」「白糠町版キャリアパスポート」の有効利用や地域企業・地域人材等を活用した教育活動の改善・充実を図り、実社会で生きる実践的な力の育成に努めます。



昨年8月に開校した「白糠学園」の授業風景

耕し直すことを行動目標とする「ふるさと教育」を継続して実践してきたところであり、これは、先述した令和の日本型学校教育に求められる子ども像、教師像とまさに一致するものです。

よって、本年度も「ふるさと教育」を基軸とした教育を継続・充実し、確かで豊かな学びを保障する教育づくりを推進する必要がありますと考えています。

近年、地球温暖化などによる環境問題が深刻化する中において、環境教育の重要性がますます高まっていることから、環境や環境問題を多面的な視点から考えることができるようにするための取り組み

② 豊かな心と健やかな体の育成

●生命の尊さと思いやりの心の育成

道徳性を育む道徳教育の充実を図るため、道徳科の特質を踏まえた授業改善に取り組むとともに、子どもたちが多様な他者と互いに協力し合い認め合う中で、他者を思いやり、自らの成長を実感したりするなど、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進していきます。

また、豊かな情操を培うことができるよう、専門性の高い音楽家による授業サポートや、休み時間等の音楽活動に積極的に取り組んでいきます。

●体力の向上と望ましい生活習慣の確立

望ましい生活習慣の確立
体力・運動習慣に係る各種調査結果を活用し、学校や家庭・地域における運動機会の充実に努めます。同時に家庭と連携した生活リズムのチェックや情報端末機器の使用法を検討するなど、望ましい生活習慣の確立に努めます。



昨年度から音楽で心を豊かにする情操教育に取り組んでいます。

を進めていきます。

学校教育では、昨年8月に義務教育学校「白糠学園」が開校し、町内の他の学校とともにマネジメントサイクルを機能させた小中一貫教育の充実を図れたところですが、一方で子どもの可能性を最大限に引き出し、主体的に思考することができるような授業づくりや、子どもたちの基本的な生活習慣の確立などの課題が明らかになりました。本年度は、これらの課題に向き合い、課題解決に向けた組織的な取り組みを行います。

また、社会教育では「第10次白糠町社会教育中期計画」のスタートの年となることから「人生100年時代」の各ライフステージに

2 学校教育の充実

本町の「ふるさと教育」ならびに令和の日本型学校教育の確実な展開を図り「未来社会を切り拓くための資質・能力の確実な定着と社会で活躍できる人材の育成」に

●地産地消や地域の特性を生かした食育の推進

地元生産者の協力のもと、今後地産地消を意識した「ふるさと給食」を継続するとともに、安心して栄養バランスの取れた、白糠ならではの給食の提供に努め、栄養教諭を中心とした食育の充実を図っていきます。

また、給食を安定的に提供するため、経年により老朽化しつつある調理機器の計画的な更新を実施します。